

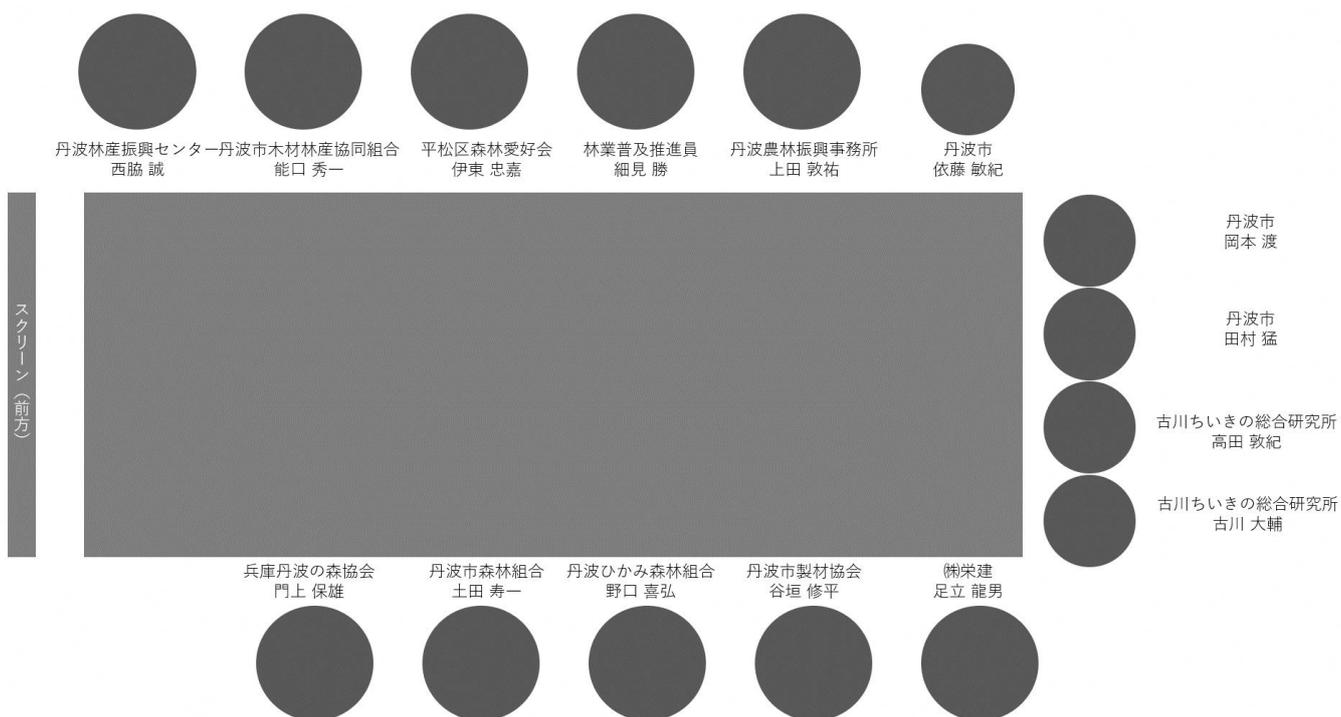
丹波市森づくりビジョン（改定版）策定委員会第1回

議事録

日時：令和5年6月23日 14時~16時

場所：丹波市役所春日庁舎4階 大会議室

参加者：以下座席配置図参照



1 委員長・副委員長専任

- ・ 委員長：兵庫丹波の森協会 門上 保雄
- ・ 副委員長：丹波ひかみ森林組合 野口 喜弘

2 丹波市森づくりビジョン概要説明（事務局より説明）

- ・ 背景と目的（当日配布資料参照）
- ・ 委員会の役割
- ・ ビジョン（改定版）策定に係るプロセス
 - ①森林に関する現況調査
 - ◇ 10年間の取組の成果と課題、上位関連計画との整合検証
 - ②市民ニーズ等の意識調査
 - ◇ 市民アンケート、林業関係者へのヒアリングによるニーズや意識調査の把握と分析
 - ③今後の基本方針、基本施策展開内容の改定
 - ◇ ①、②の分析・検証結果を基に、今後展開していくべき基本施策の検討
- ・ 丹波市森林づくりビジョンにおける施策体系と林業施策取り組み状況
 - 具体的な施策（現行ビジョン29ページ）の体系を元に取り組み状況を説明
 - 事業内容、事業説明一覧は当日配布資料（配布資料2）を参照
- ・ 質疑応答
 - 委員C：森林経営計画とはどのような関係性があるのか
 - ◇ 事務局：「3. 林業再生を目指す森林づくり」が該当する部分ではあるが、経営計画のみを抜き出しで頭出しはしていない

3 古川ちいきの総合研究所より

- ・ 自己紹介
 - 学生時代、地域づくりインターンで奈良県川上村に行ったところから山と繋がる
 - ◇ 独立後、川上村での一般社団法人吉野かわかみ社中の立ち上げなどにも関わる
 - ◇ 同じ吉野の山でも手を入れていない山もあれば代々間伐して育ててきた森もある
 - 『森ではたらく』書籍紹介
 - 東京都町田市出身
 - ◇ 「地元で里山環境の活用と広葉樹材の活用を考える」という講演に数年前登壇
 - ✓ 皆さんも市民の代表として来られていると言うことで、皆さんの原体験も大切に、将来を考えていきたい
- ・ 最近の話題
 - Wedge「瀕死の林業」
 - ◇ 瀕死からの課題解決か、否、林業は課題解決ではない
 - ◇ ビジョンはマーケット創造につながる

- ◇ ビジョン＝未来像
 - ✓ 妄想・理想構想→立地・規模・暖簾→過去・現在・未来→川上から川下→位置
 - ✓ 力相応の森づくりで一番になる
- ◇ マーケット
 - ✓ 顧客形成→森林・木材「そこに愛はあるのか」→3つの対象顧客・人材・投資
 - ✓ 補助金があるからではなく、200年生の木をどう使ってほしいとか、顧客に満足に木材を使ってほしい

・ 事例紹介

➤ 高知県本山町

- ◇ 高校生など若い世代も入る委員会でビジョンを策定
- ◇ 本山町の森づくりは何かを一言で突き詰めた委員会
- ◇ 昨年度には概要版等を作成し、絵を描き市民が誇りに思える森づくりを進めている
- ◇ ビジョン策定をして終わりではなく、3～4か年で推進支援をする想定
 - ✓ 昨年度からは森林ゾーニング分科会などを設置し、地域の林業従事者らと地質地層から学ぶ機会を定期的に設定

➤ 静岡県天竜市

- ◇ 森林組合は車両系、民間は架線系の施業というように施業の方法、場所をすみわけしている

➤ 岐阜県東白川村

- ◇ 森林レンタル Forenta を展開
 - ✓ 運営会社である(株)山共は林業、製材業をしている
 - ✓ Forenta は現在全国展開中
 - ✓ 実績を踏まえ、今では村有林も貸し出している
- ◇ 1反6～12万円/年で貸し出している

➤ 長野県松本市

- ◇ 里山林の整備で広葉樹の活用を検討中
- ◇ 林業会社を中心に、製品づくり、キャンプ場経営、農業、酒造りまで行い、山からはじまる暮らしを体現している

➤ 岡山県西粟倉村

- ◇ 100年の森林構想の立上げと改定
- ◇ ベンチャー企業を展開、協力隊を配置し毎年20～30名の隊員が動いている

➤ 徳島県三好市

- ◇ 2つの森林組合があり、経営力も高い
- ◇ 三好林業イノベーションセンターの立上げ
 - ✓ 外郭団体を設置し、担当が変わらない仕組み（組織）を立ち上げ
- ◇ 三好版の林業アカデミーの創設を予定して準備中

- 佐用町
 - ◇ 町長が森林組合長
 - ✓ 手放したい森林の引き取り、買取を行っている
 - ✓ まとまった町有林を民間だけでは出来ないことを展開
- 当初は、合併市町村でいきなり森林が増えた自治体が多かった
 - ◇ 森林が増えたことで、どのような管理をするかを住民に示すために計画を立て、施策を展開していった
 - ✓ 浜松市、相模原市、豊田市など
- ・ おそらく丹波市でも色々な森がある
 - 「SDGsよりもあなたの森は？」というマイビジョンを大事にされたい
 - 林業はどうあるべきか、ではなくどんな林業をしたいかを考えられたい
 - ビジョンにおいては、プロセス、事業、雇用の明確化、デザイン（見える化）、チーム形成（組織化）も重要な要素で大事にしているところ
 - ◇ デザインについては、丹波市ならではの言葉の落とし込みも大事
 - ✓ 例：佐用町「さよう、な森。べっちょない」、三好市「千年の森かくれんぼ」の森構想、本山町「土佐本山コンパクトフォレスト構想」
 - ✓ 近所ではライバルかもしれないが、丹波市というエリアに誇りを持って事業を動かす時には協力が必要となる
 - ✓ トータル林業の視点を大事にされたい

4 事業内容について

- ・ まず将来どのような森林を目指したいか
 - 本来ビジョンを立てたら基本計画を立て、実施計画を進めていく
 - 首長や担当者が変わった時にも軸が変わらずに進めていけるよう、事業内容を示す
- ・ 森林環境譲与税について
 - 事例紹介（A b e m a T Vの事例紹介）
 - 民間から意見が出てくることが多くなると想定され、委員の皆でそれぞれ意見を持ち、語れるようにはしていけないといけない時期にある
 - 丹波市は既にどのような森づくりをしていきたいかというビジョンを立てられてどのように使っていくかを考えられてきた、正しい手順だと考えられる
- ・ 森林経営管理制度について
 - 7割は取り組みが始まっているが、実行支援、施業まで行えているのは一部
- ・ SDGs について、脱炭素やカーボンニュートラルについてもどのような立て付けで市としては何を目指しているかを整理する必要がある
- ・ 本ビジョンの位置づけ、現況調査については当日配布資料を参照
- ・ 委員会自体は4回しかないが、契約回数以外にも訪問日を設定し、丹波市のことを深く知りたいたい
 - 皆さんのところにも訪問させていただく機会を設定させていただきたい
- ・ 改定版として書き換えるだけではない、ビジョンの見える化、事業の構造化を図りたい

5 ビジョンに関する意気込み、確認

- ・ 委員 A：委員の役割についてしっかり聞いておきたい。個人的なことを書いていいのか、団体の立場を言えばよいのか確認したい
 - 委員 I：法人と個人を確実に分けないといけない時には事前に条件を伝えさせていただく。基本的には一市民の代表として話をしていただきたい
- ・ 委員 B：事業内容については大まかな理解は出来た。10 年の見直しということで、特に PDCA を回せるようにしたい、過去の反省点も洗い出したうえで次のビジョンをと思う
 - 高齢者が多い現状がある。今後 10 年は危機的な方向に分帰路に立っている重要な時期
 - 一般のアンケートについては SDGs や脱炭素に対する関心度も伺いたい
- ・ 委員 C：前回ビジョンは事務局。平成 24 年ビジョンが出来た後、H26 年の豪雨災害が印象的。ビジョンを策定した後の大きな出来事。今でも豪雨に対する危機感は脅威。身近な問題として関わってくる
- ・ 委員 D：林業、製材業、建築、廃校利用もしており、川上から川下を行っている。今回の建築の立場からお話すると、数十年の木材活用の補助金があっても木材価格は上がっていない。定性的ではなく定量的な目標も立てて行きたい
 - 自社では半年で 70 名ほどの採用応募があり 10 名程の中途採用しているが、国の予算があり、事業限度があるので急に従業員を増やすのは無理と言われている
 - 具体的な目標（KPI）を立てることも重要であると考え
 - ◇ 委員 I：本山町のビジョンは数値化を入れている。
- ・ 委員 E：概要ばかりではだめで、具体的な話が見えてこないといけない。作り直したところで、多面的な森林をどう持っていこうということが見えてこないのは良くない。最低 3 つでも具体的な目標（量）が決まれば向かっていけるのかというものを入れたい
 - 製材業界の会長として参加しているが、製材業界も減り、十何社があるが製材をしているのは数社。ましてやその中で丹波市の木を製材しているのは何社なのかということ
- ・ 委員 F：岐阜の人工林、丹波市が合併した時 7 万、6 万 1 千人。高齢化も進んでいる。
 - 平均年齢 58 歳。氷上インター付近を見ても、サイクリングコースが出来るというような話もあるため、山側と繋げる。山岳トレイルなども結び付けられるとよい
- ・ 委員 G：20 年後は、大きくなりすぎた木を何に利用できるかという具体性も考える必要がある
 - 市場に売り先は任せているのが現状
 - 林業の従事者を育てるにあたり、採用補充が出来ないということが課題
 - ◇ 丹波市の魅力を伝えられたら良い
- ・ 委員 H：林業施策ビジョンではなく、森づくりのビジョン
 - 人工林がほとんどではあるが、森づくりは楽しい所があるというところを示すのもビジョンの役割の一つと考えられる
 - 背景として、森林環境譲与税についても関わってくるのが今回
 - ◇ 林業に活用するお金はあるが、残り森作りの話をするのではなく、森づくりの楽しみの枠も最初から取れるようにしていきたい

- SDGsの中で森づくりビジョンを示す、ロゴを貼り付けるだけではなく、中身まで踏み込んだ整理をしたい
- 木質バイオマスの活用も併せて考えられたい
- 関係人口についても話をされたい
- KPIを設定されるのもよいが、そこまでいくまでのプロセスは重視されたい
- ・ 事務局：大きな枠の中でハード整備を中心に考えたい
 - 現行ビジョンには大きな3本柱がある
 - 詳しい目標を盛り込めないかというところは確かに考えられるところ
 - ◇ 林業の制度改正がある中で、明確に届かない
 - ◇ 目標指数は持っているが、リカバリーできないかというところも検討したい
- ・ 委員C：この会と並行して、林業の普及委員会としても情報共有の場を進めたい
- ・ 委員E：私は木材市場として、良材を丹波から発信したい
 - 間伐もだが、皆伐事業も盛んにおこなわれている
 - 10年だけではなく、100年、200年スパンで考えることも重要
 - 委員H：丹波といえば森のイメージがある
 - ◇ 昔は量を出していれば良いという感じではあったが、これから、高齢化、人が少なくなる中では、量で勝負するよりも良い材を長期で作るというのも生き残り戦略だと考える
 - ◇ 委員E：大きな杉も歩留まりがわるいため遠くにも買ってもらうという現状
 - ✓ 良い木も悪い木も同じ値段で出てしまう
- ・ 委員B：森づくりだが、里山との住み分け、民家に繋がっている部分
 - 何で山は皆伐までしないといけないのか、間伐しないといけないのかと言われることもある
 - ◇ 森の魅力を感じられる動かし方、里山の整備についても考える必要がある
 - ◇ 見える場所の整備が進むことで一般市民への理解にも繋がるのではないか
 - 委員H：直接市民に訴える部分が、森づくりに関わる部分にあれば良い
 - ◇ 丹波の森というのは景観としても（田畑、家、森、家と森の間の綺麗に整備された森も）ある
 - 委員F：里山づくりについて、丹波市は多く予算を割いてくれていると思う
 - ◇ 年間数十件、里山づくりの事業も出されている
 - ◇ 住民が分かりづらいのであれば発信を強められたり看板を置くなど必要かもしれない
 - 委員B：なんでも市にいったらやってくれると思いがち、自分達も動くから支援をしてほしいということは少ない。
 - ◇ 意欲が高い所に目を向けて支援する方向性を強められたい
 - ◇ 人口減少、高齢化によって若者が育っていないのも現状、育成も重要

6 アンケート調査について

- ・ 山林所有者調査について
 - 委員 A：共有林については特に土地所有と利用権が別の場合もあるため、その辺りも聞けるようにしたい
 - ◇ 地上権と所有者の乖離がある点は考慮して整理されたい
- ・ その他修正希望などあれば、6月30日までに意見を提出

7 次回の委員会開催予定

- ・ 8月22日(火)の午後
 - 委員向けの Outputsheet は6月30日提出締め切り、次回委員会でとりまとめを共有
 - アンケート調査の進捗状況などを踏まえ意見交換を想定

以上